

オピオイド製剤の適応疾患 がん、非がんの適応の違い

オピオイドと言うと、「モルヒネ」が一番に名前が上がり、一般的にがんの鎮痛薬と認識されています。実際、2007年までは、非がん性疼痛のオピオイド治療薬は、「モルヒネ」と「コデイン」しか、適応がありませんでした。

近年、オピオイド治療薬の役割が広がり、更に、オピオイド以外でも類似適応のある薬剤が存在するので、今回紹介します。

【これまでのがん性疼痛に使うオピオイド製剤:当院採用薬剤】

がん性疼痛に使える当院採用薬剤は、次の通りです。

成分:モルヒネ【モルヒネ塩酸塩錠、オプソ内服液、モルヒネ塩酸塩注】 成分:フェンタニル【フェントステープ、フェンタニル注】

成分:オキシコドン【オキシコンチン TR 錠、オキノーム散】

成分:コデイン:【コデインリン酸塩1%散】

成分:トラマドール【トラマール OD 錠】

成分:ペンタゾシン【ソセゴン注】

【非がん性疼痛に使えるオピオイド製剤】

当院で使用可能な各種オピオイドの添付文書に記された効能・効果

薬品名	商品名	効能・効果
トラマドール/アセトアミノフェン配合錠 1錠にトラマドール37.5mg アセトアミノフェン375mg含有	トラムセット® (トラマドール単剤は トラマールOD錠)	非オピオイド鎮痛薬で治療困難な非がん性[疼]痛, 抜歯後の疼痛における鎮痛
ブプレノルフィン貼付剤	ノルスパンテープ®	非オピオイド鎮痛薬で治療困難な変形関節症, 腰痛症に伴う慢性[疼]痛における鎮痛
コデイン	リン酸コデイン 1% 散	疼痛時における鎮痛
モルヒネ	塩酸モルヒネ錠・末	激しい疼痛時における鎮痛・鎮静
フェンタニル貼付剤	フェントステープ	非オピオイド鎮痛薬および弱オピオイド鎮痛薬で治療困難な中等度から高度の慢性[疼]痛における鎮痛

(注意点)

- ・慢性疼痛での使用には、医師のe-ラーニングが必要な薬剤あり(フェントステープ・ノルスパンテープ)
- ・ノルスパンテープの適応は、限定的である:変形性膝関節症と腰痛症のみ
- ・上記の適応は、がん性疼痛以外の適応のみを記載していますので、ご注意下さい

【オピオイド製剤の強さの比較】モルヒネ塩酸塩(内服)30mgと同等の効果は？

・**モルヒネ塩酸塩(内服)30mg ≒ ترامドール 150mg ≒ フェントステープ1mg**

と、われています。 ترامドールに関しては、モルヒネ塩酸塩の 1/10 という考え方もあります(聖隷三方原病院)。

ところで、ノルスパンテープ(成分:ブプレノルフィン、レペタン注と同じ)は、どの程度の強さなのでしょう。その指標が添付文書にはありません。そのため、別の薬からノルスパンテープに変更する場合、初回投与量から開始する必要があります。オピオイド同士の併用は基本的にはしませんが、一時的には、行なう場合があります。

(共通する副作用)

オピオイドなので、便秘・吐き気の対策をする必要があります。慢性疼痛に対して使用する場合にも、同様の注意が必要ですが、開始量が少ないのと、がん性疼痛の患者より活動量が多いためか、問題になる場合が少ない感じがあります。

成分: ترامドール ترامセット配合錠・トラマール OD 錠(25,50mg) について

・ ترامドール配合錠は、 ترامドールとアセトアミノフェン(カロナール)が配合されており、互いに効果を強め合います。

・ 精神依存、嗜癖、乱用の副作用が少ないとされています。

・ ترامドールはコデイン類似の合成化合物であり、その鎮痛効果は、 μ オピオイド受容体に対する弱い親和性とセロトニン・ノルアドレナリン再取り込み阻害作用をあわせもつことで発揮されると考えられています。

・ ترامドールはその作用機序から神経障害性疼痛に効果的であることが報告されています。便秘、嘔気・嘔吐の発生頻度は低いです。



成分: ブプレノルフィン ノルスパンテープ(5, 10, 20mg)

・ モルヒネと類似する作用を示します。1週間貼付する製剤です。

・ メーカーによると、強さの比率が示せないとの見解ですが、一般的に文献的には、モルヒネ塩酸塩に対して 25-50 倍の強さがあるとされています。(天井効果あり)

・ その比率を換算すると、ノルスパンテープ 5mg(全て吸収された場合)で、モルヒネ塩酸塩錠 30mg/日と同程度の強さと考えられます。(ただし、天井効果があるので、増量した場合には比例しない可能性あり)



成分: フェンタニル フェントステープ 麻薬(0.5, 1, 2, 4, 6, 8mg)

・ フェンタニルの鎮痛効果は、モルヒネと類似しており、静脈内投与した場合、フェンタニルの鎮痛作用はモルヒネの約 50~100 倍とされています。

・ WHO ラダーでは、モルヒネと同様に 3 段階目に登場する強力な効果のある薬剤です。

・ モルヒネと比較して、便秘と眠気は少ないと言われています。



成分名: コデインリン酸塩 1%コデインリン酸塩

・ モルヒネ塩酸塩の強さの、およそ 1/6 程度の強さがあります。活性代謝物がモルヒネ塩酸塩なので、同じ考えで良いでしょう。1日に4~6回投与する必要があります。散剤のみ採用です。



【慢性疼痛などに使える、オピオイド以外の薬剤】非常に増えてきて、書ききれないくらいですが、主要な薬剤を列記します。

神経障害性疼痛、線維筋痛症: リリカ OD 錠(25,75mg)

末梢性神経障害性疼痛: トリプタノール錠(10,25mg)

線維筋痛症・慢性腰痛症・変形性関節症: サインバルタカプセル(20, 30mg) などがよく使われています。

より安全な医療をみんなで行っていきましょう!!